

グローバル関係融合研究センター キックオフ・シンポジウム 『グローバル世界と日本の現在と未来を考える』2017.6.1 THU

千葉大学は2017年4月、「グローバル関係融合研究センター」を設立しました。これは、文部科学省科学研究費助成事業「新学術領域研究」である「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立」が採択されたことを契機とし、「グローバル関係学」の構築のための研究ハブ拠点として設置されたものです。

同センターは、千葉大学における初めての人文社会科学系の全学研究センターであり、本学の文系研究のピークとして、政治学や経済学、地域研究や文化人類学など、既存の学問の枠を超えた、新しいグローバルな危機に対処する応用研究分野を生み出すことを目指します。

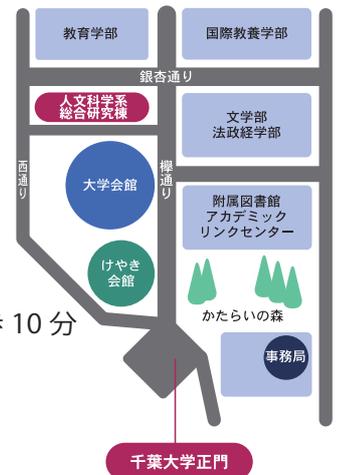
本シンポジウムは「グローバル関係融合研究センター」開所を記念して、本学卒業生である渡辺雅隆朝日新聞社代表取締役社長にお越しいただき、グローバルな危機のもとでのジャーナリズムの果たす役割について、ご講演いただきます。また後半は、アジア、西欧、中東問題の専門家たちが、現下の「グローバルな危機」を読み解くパネルディスカッションを行います。みなさまの積極的なご来場を、お待ちしております。

日時：2017年6月1日（木）14:30～18:00

場所：千葉大学 けやき会館大ホール（西千葉キャンパス）

会場アクセス：http://www.chiba-u.ac.jp/campus_map/nishichiba/index.html

最寄り駅：京成千葉線「みどり台」駅より徒歩10分／JR総武線「西千葉」駅より徒歩10分



◆◇プログラム◆◇

14:00 開場

14:30 開演

14:45 基調講演

渡辺 雅隆氏（朝日新聞社代表取締役社長）

「国際社会と日本の課題 ジャーナリストの役割とは」

世界の混迷が深まるなか、日本の先行きも不透明感が増しています。この時代の「羅針盤」となるために、新聞というメディアがなにをしているのかを、語っていただきます。

15:45 休憩

16:05 パネルディスカッション

「グローバルな危機にどう対処するか：欧米、アジア、中東の視点から」

司会：大石 亜希子（グローバル関係融合研究センター 副センター長／法政経学部教授）

報告：水島 治郎（グローバル関係融合研究センター／法政経学部教授）

（欧米）「ポピュリズムの拡大、岐路に立つ先進デモクラシー」

石戸 光（グローバル関係融合研究センター／法政経学部教授）

（アジア）「トランプ政権とアメリカ・ファーストの影響」

酒井 啓子（グローバル関係融合研究センター長／法政経学部教授）

（中東）「内戦、「イスラーム国」の果てにあるもの」

18:00 閉会



お申込み方法

一般参加希望者（学外）：http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/activities/kickoff_sympto.htmlにて申し込みフォームよりお申込みください。なお、会場の都合上、満席になりましたら締め切らせていただきます。

千葉大学 学生・教職員：当日会場にて、学生証・職員証をご提示ください。会場の都合上、先着順とさせていただきます。



千葉大学 CHIBA UNIVERSITY
「グローバル関係融合研究センター」
Center for Relational Studies
on Global Crises, Chiba University

基調講演

「国際社会と日本の課題 ジャーナリストの役割とは」



渡辺 雅隆氏（わたなべ・まさたか）朝日新聞社代表取締役社長

1959年、千葉県生まれ。82年、千葉大学人文学部法経学科卒業。同年に朝日新聞社に入り、鳥取支局など関西・中国地方での取材経験を積む。89年から大阪本社の社会部記者として主に事件や事故、裁判などを担当した。95年の阪神大震災では、地震発生直後から現地に入り、取材陣を率いる「キャップ」として約半年にわたって震災報道を指揮した。

その後、大阪本社の生活文化部や社会部の部長などを経て10年に編集局長に就き、大阪本社の紙面作りを統括した。紙面の充実に力を入れ、「大阪地検特捜部の資料改ざん事件」の調査報道が、優れた報道に贈られる新聞協会賞を受賞するなど、多くの成果を上げた。

13年から取締役になり、総務部門を統括する管理担当や、仕事以外の生活を充実させるために働く環境の改善をはかる「ワークライフ・バランス（WLB）」担当などを務めた。

14年12月、代表取締役社長に昇格。15年1月に「信頼回復と再生のための行動計画」を発表し、「ともに考え、ともにつくるメディア」へと朝日新聞社を進化させる方針を明らかにした。

パネルディスカッション

「グローバルな危機にどう対処するか：欧米、アジア、中東の視点から」



大石 亜希子（おおいし・あきこ）

千葉大学法政経学部教授／グローバル関係融合研究副センター長（専攻：労働経済学、社会保障論）。日本経済研究センター研究員、国立社会保障・人口問題研究所室長を経て現職。日本学術会議連携会員（経済学委員会）。厚生労働省社会保障審議会人口部会委員。主著に、『*Family, Work and Wellbeing in Asia*』（Springer、2017年、共著）『社会と健康：健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ』（東京大学出版会、2015年、共著）、『子育て世帯の社会保障』（東京大学出版会、2005年、共著）など。



水島 治郎（みずしま・じろう）

千葉大学法政経学部／グローバル関係融合研究センター 教授（専攻：ヨーロッパ政治史、比較政治）。ライデン大学客員研究員、甲南大学法学部助教授などを経て現職。主要著書：『反転する福祉国家——オランダモデルの光と影』（岩波書店、第15回損保ジャパン記念財団賞）、『ポピュリズムとは何か—民主主義の敵か、改革の希望か』（中公新書、2016年）、編著に『保守の比較政治学—欧州・日本の保守政党とポピュリズム』（岩波書店）など。新聞、雑誌など各種メディアでの登場多数。



石戸 光（いしど・ひかり）

千葉大学法政経学部／グローバル関係融合研究センター 教授（専攻：国際経済論）。国連開発計画、日本貿易振興機構アジア経済研究所を経て現職。APEC（アジア太平洋経済協力）の専門家、国連機関・外務省等での経済研修の講師等を歴任。主要著書：『地球経済の新しい教科書』（明石書店）、『相互依存のグローバル経済学：国際公共性を見すえて』（共著／明石書店）、『千葉の内なる国際化：地域と教育の現場から』（千葉日報社）、『ASEANの統合と開発：インクルーシヴな東南アジアを目指して』（編著／作品社、2017年）など、日本語、英語での論文多数。



酒井 啓子（さかい・けいこ）

千葉大学法政経学部 教授／グローバル関係融合研究センター長（専攻：イラク政治史、中東現代政治）。アジア経済研究所でイラク研究に従事、在勤中に在イラク日本大使館専門調査員、カイロ・アメリカン大学客員研究員を歴任。東京外国語大学教授を経て、現職。主な単著に、『イラクとアメリカ』（岩波新書）、『フセイン・イラク政権の支配構造』（岩波書店）、『イラク戦争と占領』（岩波新書）、『＜中東＞の考え方』（講談社新書）、『移ろう中東、変わる日本 2012-2015』（みすず書房、2016年）など。元日本学術会議会員、元日本国際政治学会理事長。